

土木学会原子力土木委員会 新立地部会  
平成 14 年度 第一回 断層活動性分科会 議事録

日時：平成 14 年 7 月 31 日（水） 14:00～16:30

場所：弘齋会館（四谷）

出席者：（敬称略，50 音順）

主 査 垣見（元原子力発電技術機構）

副主査 井上（電中研）

委 員 今泉（山梨大），入佐（内閣府），大野（四国電力），片川（北陸電力），金折（山口大），鎌田（九州電力），川原（経産省），北川（日本原電），楠（電中研），酒井（東京電力），下川（産総研），佃（産総研），伝法谷（電源開発），中西（中部電力），橋本（東北電力），堀江（関西電力），本荘（総合地質調査），藪（北海道電力），山崎（都立大），横倉（産総研）

幹事長 宮腰（電中研）

幹 事 青柳，阿部，上田，浜田，三浦（以上、電中研）

オブザーバー 岡市，増田（日本原電），橘川（シー・アル・エス），高尾（東京電力），久松（中部電力），吉田（北陸電力）

議事：（1）平成 14 年度糸魚川 静岡構造線活断層系調査計画について

（2）長大活断層系のセグメンテーションについて

（3）その他

1) 米国カリフォルニア州の直下地震に関する検討

2) 国内の活断層の活動間隔に関する検討

3) 海域調査に関する現況

内容：（1）釜無山断層群、赤木山断層のトレンチ調査計画、塩尻峠周辺の反射法地震探査計画について活発に議論され、セグメント区分を念頭に置いた調査を要請された。

（2）国内の長大活断層系のセグメンテーション事例を紹介し、セグメンテーション区分などについて議論された。

（3）その他

1) 活褶曲やblind thrust と地震の関係や Northridge 地震の地震断層が事前に評価できたかなどについて活発に議論された。

2) 国内のトレンチ調査結果に基づく、活動間隔に関する検討結果が報告された。

3) 海域活断層の調査データの公開や活断層認定基準などについて活発に議論された。